

桐原醸造新聞

2022年1月号

あけましておめでとうございます。

あなたは今年の干支を聞かれたら、なんと答えますか？

「とら」と答えた方は正解です。いえ、正確にいうと半分正解です。なぜ半分かという、干支というのは「十干」と「十二支」を組み合わせたものだからです。

「十二支」とは、皆さんお馴染みの、「子（ね）、丑（うし）、寅（とら）、卯（う）、辰（たつ）、巳（み）、午（うま）、未（ひつじ）、申（さる）、酉（とり）、戌（いぬ）、亥（い）」と、その年を12種類の動物になぞらえたもので、数や方角を表すこともあります。「十干」とは「甲（きのえ）、乙（きのと）、丙（ひのえ）、丁（ひのと）、戊（つちのえ）、己（つちのと）、庚（かのえ）、辛（かのと）、壬（みずのえ）、癸（みずのと）」で、中国の陰陽五行思想を元にしてしています。陰陽五行の五行とは「木・火・土・金・水」で、これにそれぞれ陰と陽があります。上の十干の読み方の中には、「え」「と」というのが何度も出てきていますね。これは「え」が「兄」つまり「陽」、「と」が「弟」つまり陰を示していて、実は干支の読み方も、ここから来ています。

つまり、2022年は十二支でいうと「寅年」、十干では「壬」となり、干支は「壬寅（みずのえとら）」となるのです。

十二支や十干は、それぞれ独自の意味を持っています。例えば「壬」は、女性がお腹に子供を宿す「妊」の一部であることから「はらむ」「生まれる」という意味です。「寅」はもともと「演」が由来といわれ「人の前に立つ」、演と同じ読みの「延（えん）」から「延ばす・成長する」という意味を持っています。この2つの組み合わせである壬寅は、「新しく立ち上がること」や「生まれたものが成長すること」といった縁起のよさを表しているようです。

また、2022年は36年に一度の「五黄の寅（ごおうのとら）」です。これは、十二支と古代中国の民間信仰である九星（きゅうせい）を組み合わせたもので、九星の「五黄土星（ごおうどせい）」と十二支の「寅年」が重なることをいいます。五黄の寅の年に生まれた方は、五黄土星の「周囲を圧倒するパワー」と寅年の「強い正義感と信念、行動力」をあわせ持つ強い運勢を持つと考えられているそうです。



周りにも、周囲を圧倒するパワーの人がいたら、五黄の寅かもしれませんね。

そして今年の干支が表すように、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、2022年は華々しく咲き乱れる一年になるかもしれません。そして、そんな花吹雪に疲れる時もあるかもしれません。でもそんな時には肩の力を抜いて、

「と」まってもいい
「ら」くしてもいい
「ど」んな時でも
「し」あわせに笑っていればいい

のではないかと思います。

旧年中は格別のお引き立てをいただき、誠にありがとうございました。

2022年が、皆様にとって実りの多い年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

ちなみに、五黄の寅生まれは、2022年、1986年、1950年、1914年生まれの人たちです。あなたの